



安心してください！ 生物工学にはこのような人間もおります

小川 亜希子



社会人になるというのは、社会と積極的に関わりを持つことではないでしょうか。世間に存在する極々少数の天才を除き、人は人とのつながりを通して仕事が進んでいきます。先日（といっても紅葉の頃ですが）、後輩を交え恩師と久々に語り合う機会を得ました。その席上にて、恩師がまじまじと私の顔を眺めておっしゃった一言。「小川、すっかり社会人だな」照れ臭くも嬉しい言葉でした。

俗に優等生と言われてきた皆さん、自分はまったくそうじゃない！と否定されるかもしれませんが、悶々とした実験（研究）生活にどっぷりとハマり、この雑誌を読んでいる時点で貴方は立派な優等生です。そして、私はその勤勉さと真摯な姿勢こそが日本人が世界に誇れる財産であり、この苦境を乗り越えていく原動力であると確信しています。日本には数多くの職人が存在します。職人は品質の良い製品を世の中に送り出すため、さらにはその品質を常に向上させ、使う人の満足度、すなわち幸せを大きくするために仕事をしています。彼らの製品にはサインはありませんが、しかし、Made in Japan が示す信頼こそ職人芸の結晶であり、幸いなことに我々はそれを伝承していく権利と彼らの心意気を理解する素地があります。

研究職であれ技術職であれ、ものづくりのプロフェッショナルは必ず確固たる信念を持って仕事をしています。短期間ではありましたが、私は幸運なことに企業で技術開発に携わり職人芸を目の当たりにすることができました。私がお世話になったセーレン株式会社研究開発センターでは、研究・製品開発さらには営業職も含めた100名を超えるメンバーが一つのフロアに席を並べて仕事をしていました。もちろん、部長もセンター長も全員です。ものづくりと直結している関係上、現場や実験室、はたまた取引先へと駆け回っている方も多く、全員が顔を合わせる機会ごく希でしたが、それでもちょっと歩けば、魅力的なプロフェッショナルと話ができる環境は大変貴重でした。技術開発に求められる課題は、現場で解決できないものですから難題であって当然です。さらに、企業が発展し続けるためには、常に未来の技術を創造せねばなりませんから、誰もやったこと（成功したこと）がなかったことを実現することも同時にこなさなけ

ればなりません。考えれば考えるほど、先の見えぬ不安と自分の未熟さに落ち込んでしまうことも多く、それこそが社会の洗礼だったのだと思います。でも不思議なもので、我武者羅にやっていると周囲の方が手を貸して下さいました。お忙しい中時間を割いて話を聞いて下さったり、時には一緒に難題を考えて下さったり、チャレンジングなテーマにも取り組ませて下さったりといった具合です。こうした人の支えが、どれだけ仕事をする上で力になったことか。いえいえ、過去ではありません。現在進行中ですし、年々その割合は大きくなっていきます。そして、支えて下さる人の数も幅も大きく力強くなっていきます。いえ、学生時代には注がれる心を感じられなかったかもしれませんが、生物って多様だから面白い、と再認識したのは社会人になってからです。

私は博士課程を修了後に就職をしましたから、社会人になったのは20代後半です。周囲の人は仕事の責任者になり始める頃でしたし、私といえば収入どころか支出ばかりで独り立ちできずに不甲斐ない状態で焦っていました。この焦燥感、実は今でも形を変えて続いております。しかし、実はこれこそが私が仕事を続けていける原動力であると感じています。焦燥感があるから達成感を味わえますし、その喜びを知っているからこそ研究・開発を続けていけます。この職業は媚薬です。残念ながら多くの方がその媚薬の味を知ってしまっており、きっと止められないはず。だったらトコトン追求するのも一案ではないでしょうか。

「夢を超える目標は無い」とは教えていただいた大切な言葉です。大風呂敷を広げるのが得意な私ですが、そのままでは絶対に終わらせたくありません。広げた風呂敷をいかにして形あるものに作り上げるか？ 私はきっとそのために仕事を続けていくのだろうな、と考えています。幸いにして、日本は変人であっても技術ある人間に対して寛容な文化があります。今、この記事を読んで下さっている皆様！皆様は、私の夢を実現するための大切な大切な投資家です。投資させたことを後悔させないように、成果を発信しつづけて参りますので、今後どうぞごひいきに。